



デカ回の  
みんなも

崩夜





目が大きな  
女性だなあ



本当に

大きな目を  
していたなあ



……女性？





矢本先生!

あ  
ハイッ!

ありがとうございます!

この時間は  
生徒を出迎える  
時間なんです

一緒に生徒たちを  
出迎えますしろう?



とても目が大きな  
あの女性は  
榊山みなもさん

近くの女子大に通う  
大学の1年生で  
3年前のお姉さん  
だった



目は大きいのにあまり人とは会話する姿を見ることのない寡黙な人で

どこか堅い雰囲気を持つている古風な人だった

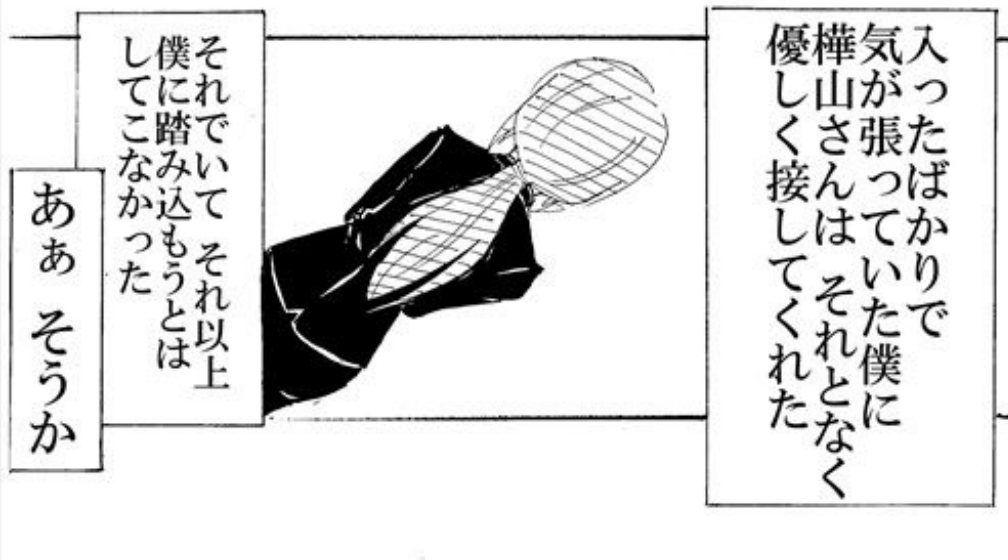
あ  
矢本先生

でっ——



最初のうちは慣れない事も多いかと思いますがなんでも聞いてくださいね力になりますので!

はい!  
ありがとうございます!  
ございます!

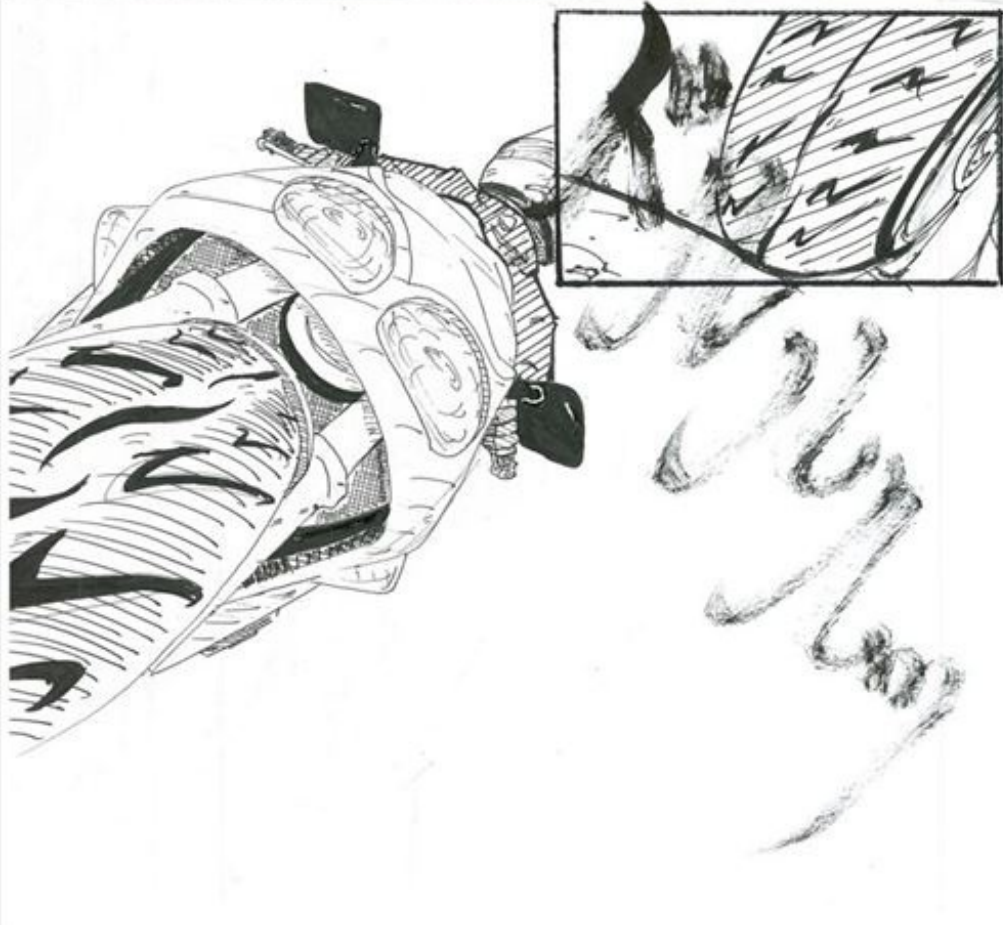


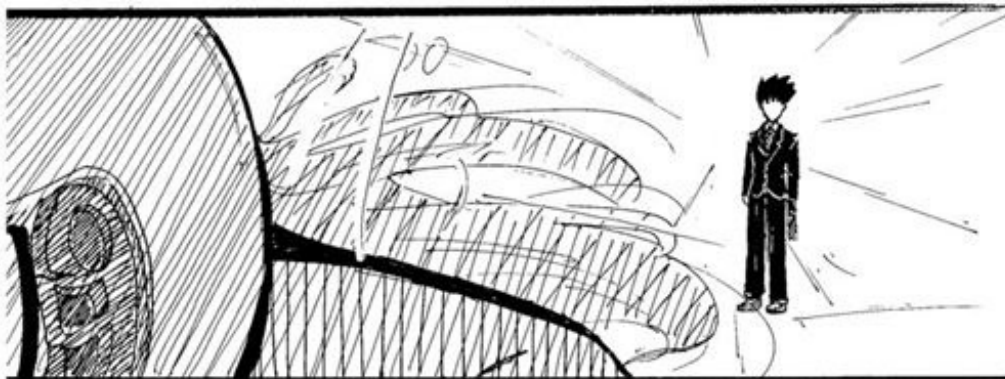
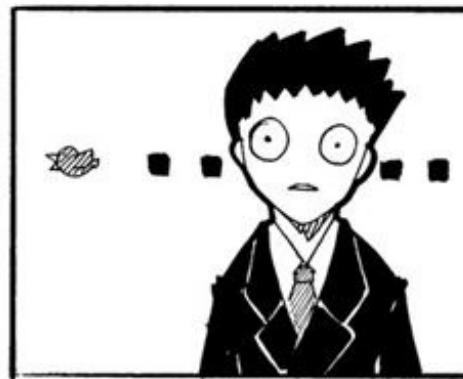
入ったばかりで気が張っていた僕に樺山さんはそれとなく優しく接してくれた

それでいてそれ以上僕に踏み込もうとはしてこなかった

ああ そうか

樺山さんは  
優しくて  
不器用な  
人なんだ











車やバイクのことや  
他愛もないことを  
話したり

話が盛り上がれば  
その流れで食事に  
誘ってみたり



あれから  
三ヶ月

僕は少しづつ  
樺山さんとの距離を  
縮めていった



人との距離に  
敏感な彼女が  
怖がらないように  
そつとそつと

少しづつ  
少しづつ

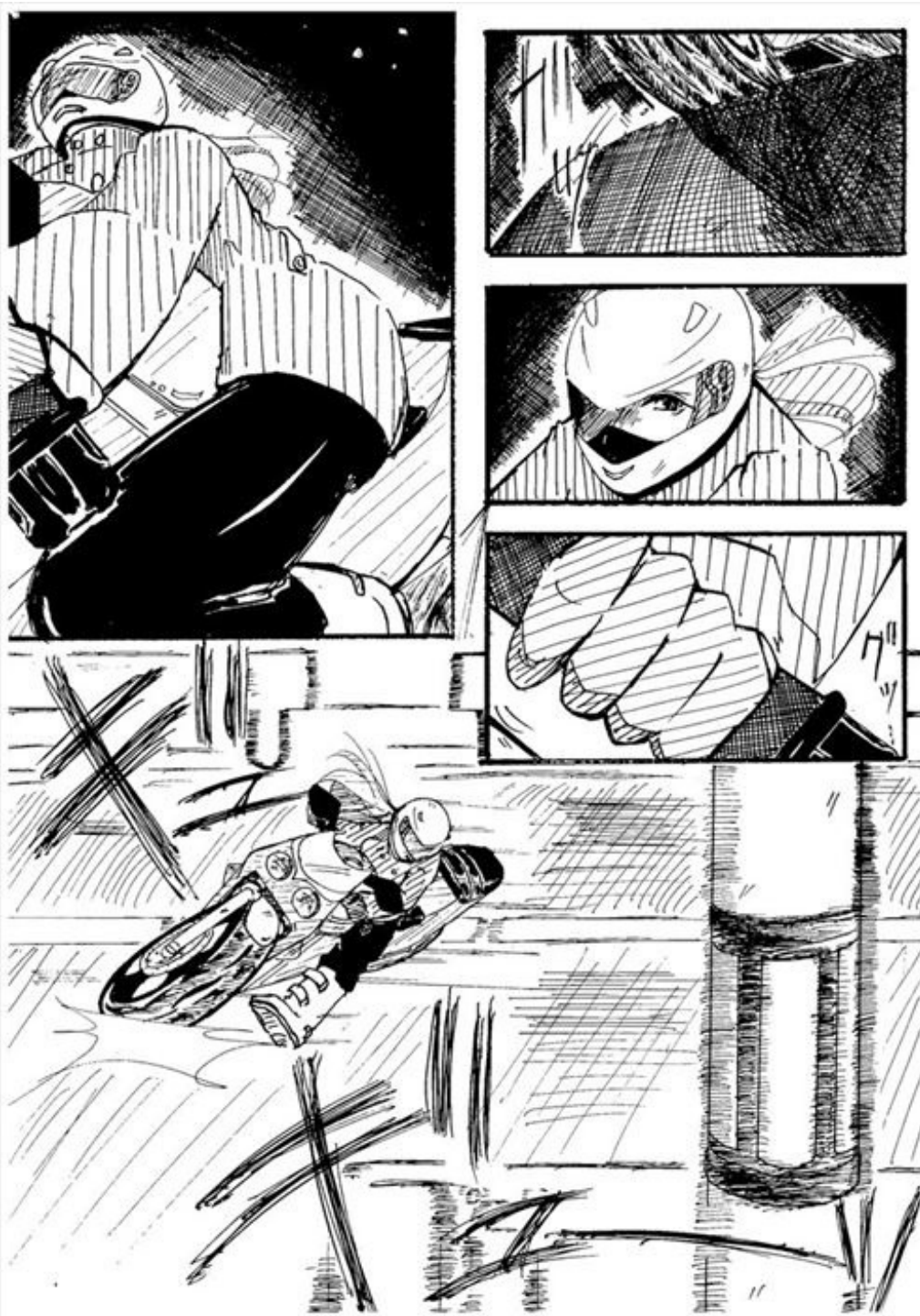
彼女との距離を  
近づけていく

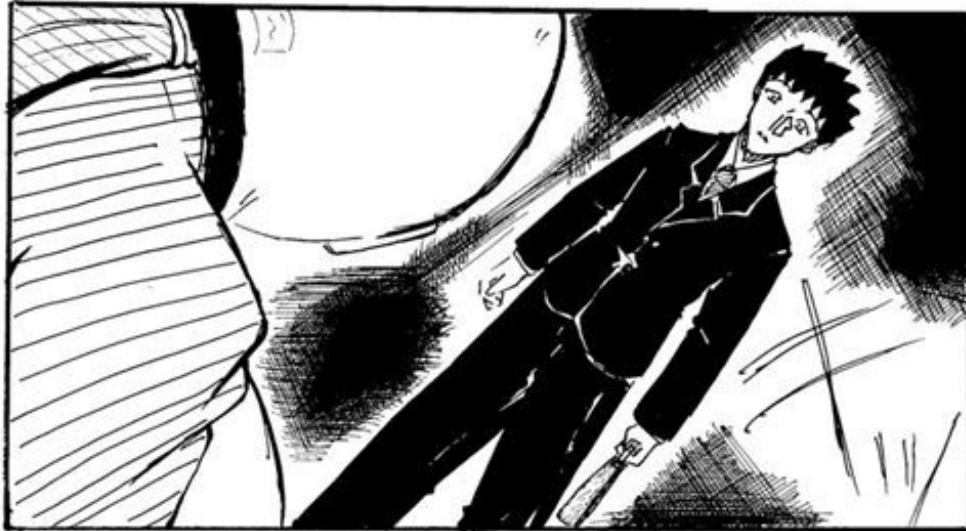
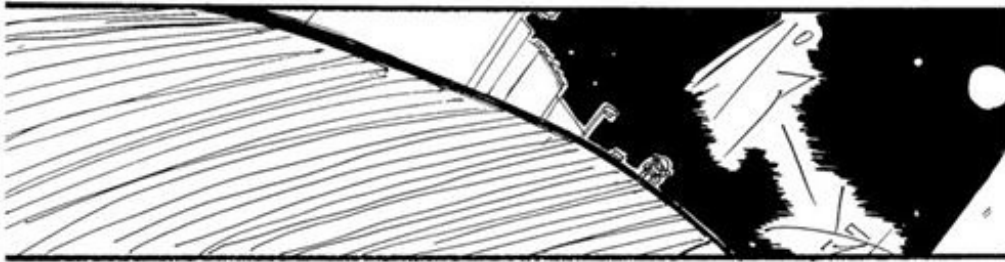


そうして近づいて  
分かったことは  
樺山さんはとても純粹で

誠実で真面目な  
女性だったという  
ことだった









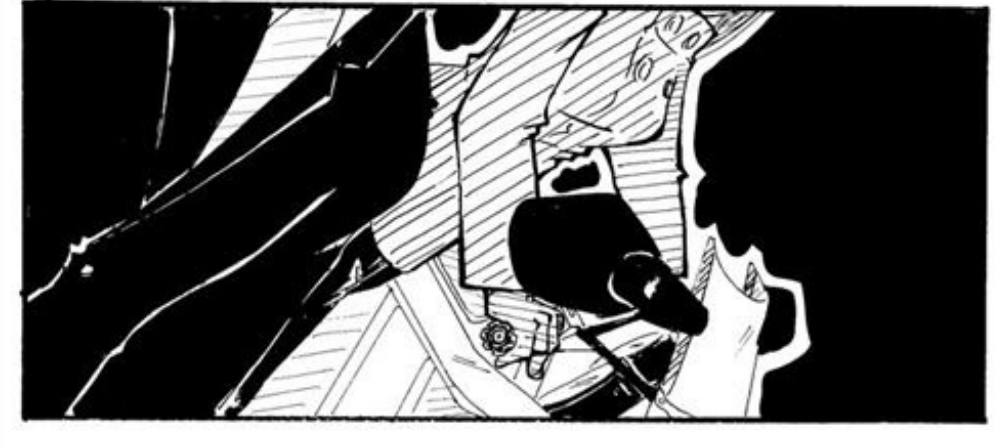


戻ってきて  
くれるなんて  
嬉しいです



とりあえず  
一緒に歩いて  
帰りませんか？









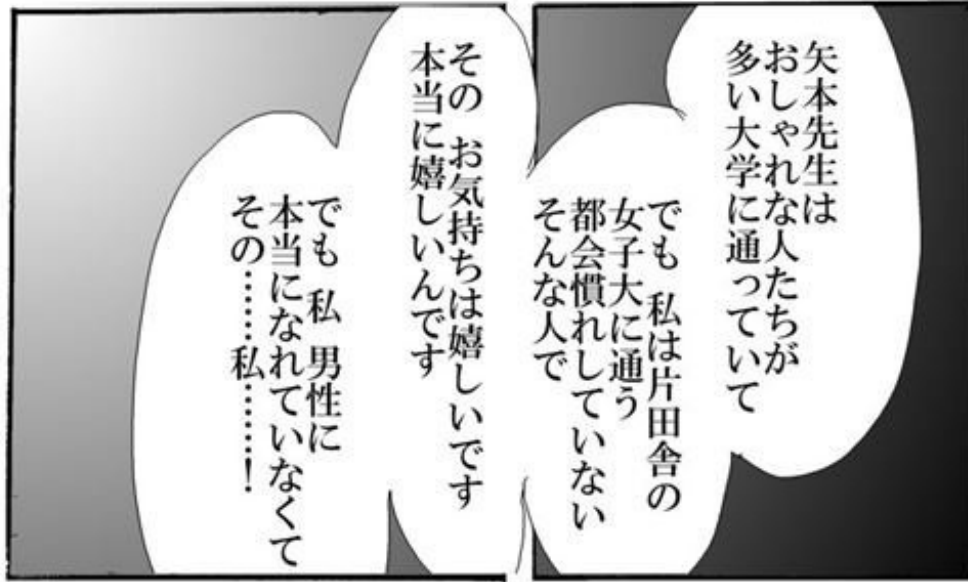
あれ？  
樺山さん？

……



あの  
矢本先生

そんなに気を  
遣わないで  
ください



矢本先生は  
おしゃれな人たちが  
多い大学に通っていて

でも私は片田舎の  
女子大に通う  
都会慣れしていない  
そんな人で

そのお気持ちは嬉しいです  
本当に嬉しいんです

でも私男性に  
本当になれていなくて  
その……私……！



勘  
違  
い  
な  
ん  
か  
じ  
や  
あ  
り  
ま  
せ  
ん







はい……

お目覚めなおや

